

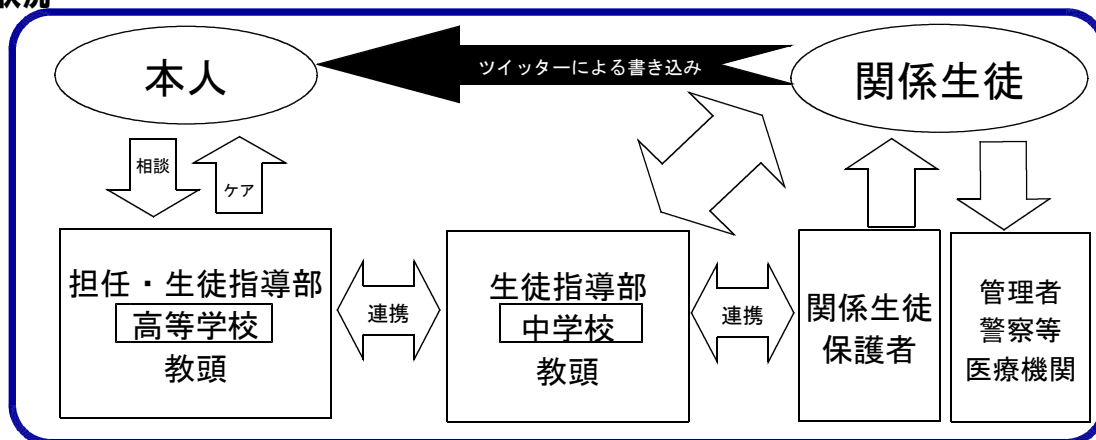
## 認知したいじめを速やかに解消した事例10（高等学校第1学年女子）

### ～高等学校と中学校による組織的な対応～

#### 問題の把握

本人は中学校時代の部活の後輩からツイッターによる誹謗中傷を受けていた。このことを本人は学級担任へ相談したところ、担任はその書き込みを確認し、いじめの事実を把握した。

#### 対応状況



- 9月○日
- ・本人はツイッターによる自分への誹謗中傷について担任に相談
  - ・担任は書き込みを確認（プリントアウト）し、詳細を把握
  - ・担任は管理職（教頭）に状況を説明
  - ・高等学校の教頭は中学校の教頭へ状況を説明
  - ・中学校の教頭は関係生徒の担任へ連絡し、中学校の担任は関係生徒に指導



- 9月△日
- ・関係生徒は再び、誹謗中傷の書き込みを行ったため、本人は高等学校の生徒指導部へ相談
  - ・高等学校の生徒指導部長は中学校の生徒指導部長へ連絡
  - ・中学校の生徒指導部長は関係生徒及び保護者へ指導
  - ・中学校は関係生徒に対してカウンセリング等を実施
- 関係生徒はその後、本人への書き込みを行うことはなく、いじめは解消した。

#### いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学級担任一人に任せることなく、学校全体として組織的に対応する。
- ・いじめの発覚後、迅速に対応する。
- ・管理職が中心となり、中学校と高等学校とで連携して対応する。
- ・学校全体で危機管理マニュアルを作成し、教職員の共通理解を図る。